

デジタル社会でプライバシー環境を整備するために

どんな環境下でもテクノロジーやプライバシー専門家はシンプルで効果的に個人のプライバシーの期待に応える選択肢を選ぶ必要があります。The IEEE Digital Privacyモデルはわかりやすい表現を使いデジタルプライバシーの考え方を広く日々の生活に近い形で整理しています。このモデルは個人やプライバシーに対する期待及び、物理やバーチャル世界の環境下で我々のプライバシーへ影響を与える要素を整理しています。



プライバシーへの期待値

The IEEE Digital Privacyモデルは個人を軸にしたデジタルプライバシーを6つの特徴で整理しています。6つの特徴を反映したデータ及びメタデータは以下の内容です。

アイデンティティ: 個人と紐づいたユニークな識別子

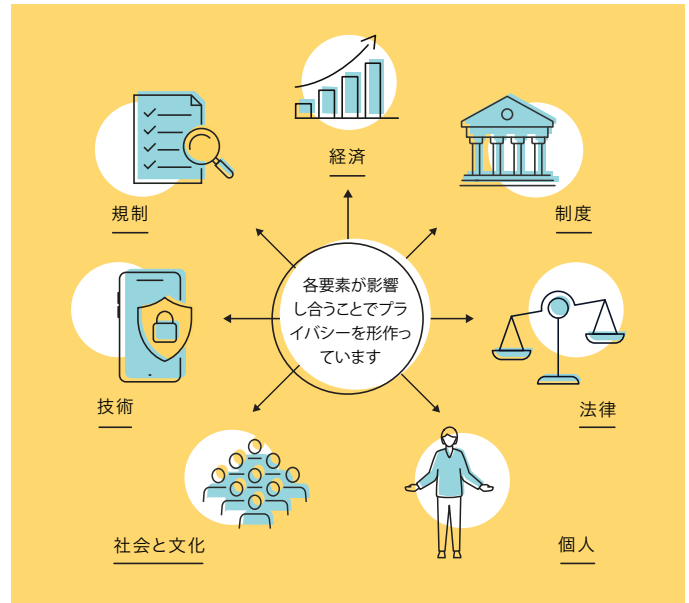
行動: 社会や経済環境の中で我々が行動するパターン

推論: 機械学習アルゴリズム(プロファイリングや抽象的な推測)

トランザクション: 物理及びバーチャル空間で社会や経済的な文脈から個人が行ったトランザクション

秘匿と統合: 個人に関連した識別子や行動、推論や取引を秘匿及び統合

アクセスと観察: 個人の識別子や行動、推論や個人によるトランザクションの観察



プライバシーによる影響

The IEEE Digital Privacyモデルは個人のプライバシーに対する期待を達成するために、我々のデジタルプライバシーへ影響を与える活動を7つの多様な環境的要素に分けて整理しています。

技術や産業標準で生み出されたソリューションによって、我々のプライバシーの期待値は技術的な影響を受けることになります。

規制はプライバシー規制のもとによる執行や産業ルール、政府による監督によって影響を与えることになります。

経済は組織や個人の決定に影響し、適切なデジタルプライバシーに対しても影響を与えます。

制度はプライバシーへの期待に対して課題の理解と法的な整理について影響を与えます。

法律は標準的な法律の制定とプライバシーへの期待のバランスに影響を与えます。

個人はデジタル環境の中で個人間でのプライバシーの境界線に対して対象となるデータやメタデータへ影響を与えます。

社会や文化は個人のプライバシーに対する期待値の価値や認識に大きな影響を与えます。



このモデルは技術、規制、経済、制度、法律、個人、社会と文化の視点から個人が持つプライバシーへの期待値に対して、個人の識別子や行動、推論やデジタル空間でのトランザクションを秘匿や統合、アクセスと観察を行うことでの達成を目指しています。

IEEE デジタルプライバシーモデル

The IEEE Digital Privacyモデルは個人のプライバシーへの期待値を6つの要素に分けて分類しています。6つの要素は識別子、行動、推論、トランザクション、秘匿と統合、アクセスと観察が該当し、さらに7つの要因として技術、規制、経済、制度、法律、個人、社会と文化に分けて整理し強固なデジタルプライバシーインフラへ影響しています。産業や国ごとに加えて、デジタルプライバシーは個人のプライバシー期待値を表現したものとなっています。The IEEE Digital Privacyモデルをビジネスや政府組織、その他のステークホルダーにマッピングさせることによって人と人との間や情報処理、テクノロジーが持つ要素や実装段階において個人の期待するプライバシーのギャップを理解することができるようになります。モデルは分野横断で考え方を共有し、モデルを活用することで個人が考えるプライバシーの期待値をデジタルプライバシー全体の中にある要素と合わせて理解することができるようになります。

